

一般社団法人日本医真菌学会  
2021年度（2021年9月～2022年8月）第4回理事会議事録

日時：2022年9月30日（金）14：30～16：00

場所：長良川国際会議場 4階「大会議室C」

〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光 2695-2 TEL：058-296-1200

出席：

澁谷和俊（理事長）

泉川公一、神田善伸、杉田 隆、原田和俊、榎村浩一、宮崎義継、望月 隆 以上理事 8名

小川祐美、村山琮明 以上監事 2名

掛屋 弘、金子健彦、三鴨廣繁、山岸由佳、若山 恵 以上幹事 5名

欠席：大野尚仁、亀井克彦、福田知雄 以上理事 3名

議題：

1. 前回理事会議事録確認（宮崎総務理事）

前回理事会議事録の確認を行った。

2. 2021年度（2021年9月～2022年8月）事業報告（宮崎総務理事）

理事会を3回、代議員総会1回、会員総会を1回、第65回総会学術集会を宮崎会長の下、第一ホテル東京（東京）で開催した。Medical Mycology Journal Volume 62, Number 4～Volume 63, Number 3を発刊した。各種委員会を適宜開催した。

3. 会員異動報告（宮崎総務理事）

2022年8月31日時点の会員数の報告があった。合計で919名となり、微減の傾向が続いている。

4. 各種委員会報告・議事

1) 編集委員会（宮崎理事）

①2021年9月～2022年8月の投稿論文数は43編であり、前年度に比べ倍増した。

②優秀論文賞は倉門早苗先生、森健先生の受賞が前回理事会で承認されており、この後の代議員総会で報告することになっている。

③第65回学術集会におけるシンポジウムの演者（会員）への執筆依頼を行い、15名より承諾を得た。

④62巻4号～63巻3号に掲載した広告企業について報告があった。

⑤来年度よりインパクトファクター（IF）が付与される見込みであることが報告され、これに伴い編集委員会の体制強化を検討している。現在MMJの掲載料は無料であることが多いため、掲載料の変更、査読システムの変更等を検討し、投稿規定の改定案を作成する予定である。

2) 用語委員会（大野理事：欠席）

澁谷理事長より下記について代理報告があった。

① 医真菌関連 ICD-11 和訳候補用語（Foundation 版）を提出した。

② 菌名カタカナ表記のHP 掲載について

*Candida auris*, *Gladophialophora bantiana* 等、委員会審議、理事会審議、パブコメを経て、カタカナ表記の2022年度版としてHPに掲載した。カタカナ表記の追加掲載の希望があった6菌種については、審議継続中のため、次期委員会に引き継ぐ。

### ③ 用語解説の掲載

シリーズ 用語解説 No. 33~No. 36 を Medical Mycology Journal に掲載した。

#### 3) 将来計画委員会 (神田理事)

① 今回の第 66 回総会において、皮膚科専門医制度、ICD、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、抗菌化学療法認定医・指導医認定制度、抗菌化学療法認定歯科医師・指導医認定制度、日本産婦人科学会の単位認定が行われる。

② 深在性真菌症を扱う血液内科医が少ないことが課題であり、全国規模で開催される勉強会にて周知を行う予定である。宮崎理事より勉強会で本会を紹介する機会があれば講師派遣についても検討をお願いしたいと意見があった。

#### 4) ガイドライン検討委員会 (泉川理事)

希少真菌症診断治療のガイドライン (仮称) 作成委員会 (掛屋幹事)

作成作業が遅れているが、原稿のとりまとめを進める予定である。若手を中心にワーキンググループを作り、月に 1 回ほど Web 会議で QO の解説を作成する作業を行っている。第 66 回総会では、本ガイドラインの内容に関するシンポジウムを行う。

#### 5) 支部会・関連学会委員会 (泉川理事)

過年度から現在までの開催状況とその開催形態 (主催/共催/後援) について説明があった。支部会の立ち上げにおいては会員増を目的としていたが、一方で各支部において様々な業績が挙げられている。引き続き会員増を目指すとともに、学会活動の活性化を目指すこととする。

#### 6) 疫学調査委員会 (福田理事: 欠席)

澁谷理事長より 2021 年に行った疫学調査のデータを解析中であると代理報告があった。

#### 7) 教育委員会 (杉田理事)

第 9 回の皮膚真菌症指導者講習会を学会ホームページで公開していることが報告された。また、前回理事会で共催が承認された第 96 回日本細菌学会総会でのシンポジウムに関して、日本微生物連盟からも共催があり、日本細菌学会に共催費として 10 万円が支払われることが報告された。

#### 8) 広報委員会 (楨村理事)

① ウェブサイトレポートについて報告があった。アクセス数は例年通りであったが、検索語の入力が減少していることが判明した。ホームページが分かりにくいことも要因であると考えられ、デザインの検討を行うとともに、SNS の活用が必要と考え、委員会内外で協力者を集めることを検討している。

② 日本医学会から依頼された、第 31 回日本医学会総会で各分科会が展示するポスターの作成を行った。委員会で作成した最終案をメール理事会で審議することとした。

③ 第 66 回総会にて医真菌写真展を企画し、最終日に鑑賞会を行うこととなっている。この鑑賞会を録画した動画をホームページで公開することを検討しているが、臨床写真が含まれているため、まず写真提供者の許諾を確認し、全員より許諾が得られた場合に、メール理事会で公開について審議することとした。

#### 9) 専門医・認定師委員会 (原田理事)

新規 2 名、更新 10 名の専門医認定が前回理事会で承認されている。また、専門医更新に際して、更新期間の 6 年間に最低 2 回は総会への参加が必須となるように細則の変更が承認されており、あわせて総会で報告することになっている。続いて望月理事より、教育委員会で開催する講習会等の単位化が提案され、検討することとなった。

10) 規約検討委員会（澁谷理事長）

委員会より特に報告事項はないが、審議事項で宮崎総務理事より細則の変更について述べられる。

11) 倫理委員会（原田理事）

報告事項なし。

12) 利益相反委員会（亀井理事：欠席）

澁谷理事長より報告事項はない旨、代理報告があった。続いて澁谷理事長より、現在ホームページで『希少深在性真菌症の診断・治療ガイドライン（仮称）』作成委員の利益相反状態を公開しており、作成中のガイドラインの利益相反状態を公開することが重要であると述べられた。

13) バイオセーフティ委員会（村山監事）

前回理事会で承認された「真菌のバイオセーフティレベル分類」について、学会誌に掲載予定であることが報告された。また、これにて今期のバイオセーフティ委員会の活動を終了することが報告された。

5. 第66回総会報告（三嶋会長）

開催にあたり挨拶が述べられた。

日本薬剤師研修センターの単位申請手続きに学会事務局の不備があり、単位付与が予定されていたWEB参加者への単位が認められなかったことが報告された。

6. 第67～68回総会報告（各会長）

1) 第67回総会報告（福田理事：欠席）

澁谷理事長より開催概要について代理報告があった。

会期：2023年10月6日（金）～10月7日（土）

会場：川越プリンスホテル

2) 第68回総会報告（杉田理事）

APSMMと合同開催とし、第68回総会は後半の日程での開催を予定している。

会期：2024年11月6日（水）～9日（土）

会場：国立京都国際会館

澁谷理事長より国際学会の開催に向けて協力が呼びかけられた。また、泉川理事より国際学会の開催にあたり科研費の申請について情報提供があった。

7. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

前述の通り、APSMMへの協力が呼びかけられた。

8. ICD制度協議会報告（金子幹事）

インボイス制度への対応について検討されていることが報告された。

9. 内保連報告（山岸幹事）

2022年度第1回内保連社員総会（2022年6月28日開催）に出席したことが報告され、本会に関係する事案はなかった。また、2022年度第1回内保連社員総会（2022年11月9日開催）に参加を予定している。泉川理事よりアスペルギルス抗体検査について、保険適用を働きかけることについて提案され、他学会と連携して内保連に提案するなど方法を検討することとした。

10. 医学会・医学会連合に関する報告（宮崎理事・小川監事）

医学会連合女性医師支援担当者連絡会に関しては特に報告事項はないと小川監事より述べられた。宮崎理事より第31回日本医学会総会の登録推進委員会に若山幹事に代理出席をお願いし

たと報告があった。若山幹事より、委員会では現在の参加登録状況について報告があり、各分科会に参加登録の推進が呼びかけられたとのことであった。

#### 11. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

報告事項なし。

#### 12. その他

##### 1) 市販の薬剤感受性測定キットの利用法等に関する学会提言作成について（澁谷理事長）

前回理事会で問題提起された、市販の薬剤感受性測定キットの添付文書に記載されている利用法について、亀井理事に学会提言作成を依頼したことが報告された。

##### 2) 日本医学会からの意見聴取について（澁谷理事長）

日本医学会より造血幹細胞移植後再接種の必要性についての意見聴取があり、神田理事の意見をもとに以下の通り回答したことが報告された。

「造血幹細胞移植後再接種は基本的に妥当と考えます。ただし、実施に際しては、造血細胞移植ガイドライン—予防接種（第3版）を遵守することを希望します。」

##### 3) エンペシドトローチ販売終了について（澁谷理事長）

製薬会社よりエンペシドトローチが販売終了となる予定であると報告があった。原田理事より、これによって皮膚科の診療が大きく混乱することはないと意見があった。

##### 4) 日本医学会連合「厚労科研」門田班の委託研究について（澁谷理事長）

日本医学会連合の門田守人会長を代表とした厚生労働科学研究費補助金事業において、日本医真菌学会が約1,000万円の研究費を獲得したことが報告された。宮崎理事、泉川理事を中心に「COVID-19 関連糸状菌感染症の実態調査と病態解明の研究」をテーマに研究を進めている。単年度中に研究可能な内容があれば提案をいただけるよう呼びかけられた。

##### 5) 日本医療政策機構特別朝食会について（神田理事）

9月21日に日本医療政策機構特別朝食会に澁谷理事長の代理で出席したことが報告された。産官学から多彩なメンバーが参加し、多剤耐性菌に対する新規薬剤の開発のための支援、市場に出てからの支援についての政策が主旨であった。真菌領域においては *C. Auris* などの耐性真菌に加えて、医療界だけでなく農業領域での抗真菌薬の多用による耐性の問題について情報を共有した。

#### 審議

#### 13. 2022年度（2022/9～2023/8）事業計画案について（宮崎総務理事）

理事会を4回、代議員総会を1回、会員総会を1回、第66回総会学術集会を三嶋会長の下、長良川国際会議場にて開催する。Medical Mycology Journal Volume 63, Number 4～Volume 64, Number 3を発刊する。希少深在性真菌症の診断・治療ガイドライン（仮称）の発刊を行う。以上の事業計画は異議なく承認された。

#### 14. 2021年度（2021/9～2022/8）決算・監査報告および2022年度（2022/9～2023/8）予算案について（望月財務理事）

##### 1) 決算報告

収入では、約310万円のガイドライン販売収入と約1030万円のガイドライン転載・複写許諾料があり、予算を大きく上回った。支出ではガイドラインに関する事業が収益事業とみなされ

るため、租税公課が例年より大幅に増額し 420 万円となった。その他は概ね例年通りで、収支差額約 720 万円の黒字決算となった。

続いて、村山監事より監査報告があり、決算は承認された。

## 2) 予算案

2022 年度に希少深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの刊行を予定しており、支出として印刷費を計上し、収入として販売収入、転載許諾料を計上している。その他は概ね前期予算と大きく変動はない。続いて澁谷理事長より、配布資料ではガイドライン転載・複写許諾料収入に 500 万円を計上していたが 2 年目となるため 200 万円に減額することが報告された。また、若手研究者奨励金の設立と規則制定を次期理事会に一任することで、予算案を承認した。

## 15. 学術賞、次世代研究者賞、特別功労賞について（澁谷理事長）

前回理事会で報告した通り、榎村理事を中心に検討された顕彰制度に基づき、日本医真菌学会顕彰規約を新設し、今年度の選考を行った。下記の学術賞 1 名、次世代研究者賞 4 名、特別功労賞 2 名の推薦があり、委員会で審議した結果、受賞資格ありと認めた。異論はなく全員の受賞を承認した。

### 1) 学術賞

候補者：掛屋弘（大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学 教授）

授賞業績：ムーコル症の新規診断マーカーの探索研究

### 2) 次世代研究者賞

候補者：ニッ谷剛俊（金沢医科大学 皮膚科学講座 助教）

授賞業績：*Trichophyton tonsurans* はじめとする真菌症原因菌の生態および分子疫学

候補者：阿部雅広（国立感染症研究所 真菌部 主任研究官）

授賞業績：カンジダ属の病原性および宿主への適合・疾患発症機序に関する研究

候補者：武田啓太（国立病院機構東京病院 呼吸器センター）

授賞業績：アスペルギルス臨床分離株における菌種同定、薬剤感受性試験の検討

候補者：中田奈々（長崎大学 保健センター 助教）

授賞業績：カンジダ血症の予後予測のための修正 pitt bacteremia score の開発—国内 5 施設 7 年間に及ぶ後ろ向き研究—

### 3) 特別功労賞

候補者：川上和義（東北大学大学院医学系研究科感染分子病態解析学分野 教授）

授賞業績：クリプトコックス感染免疫の基礎研究と潜在性感染・内因性再燃理論への挑戦

候補者：加藤卓朗（まるやま皮膚科クリニック 顧問）

授賞業績：皮膚真菌症の感染経路と発症機序の検討

最後に顕彰規約を条文にまとめていただいた村山監事に謝辞が述べられた。

## 16. 次期理事・監事選任の件（澁谷理事長）

推薦理事および監事の選出について報告され、この後の代議員総会で選任を行う。

## 17. 理事選出細則改定の件（宮崎総務理事）

前回理事会で方針が賛同された通り、以下の理事選出細則の改定が提案され、異論なく承認された。この後の代議員総会においても本件について審議することとした。また、代議員総会で承認された場合に、現澁谷理事長を新理事長に推薦したいとの意向が述べられ、賛同を得た。

現条文	改定案
2) 理事長の任期は定款に従い、重任は妨げないが再選までとする	2) 理事長の任期は定款に従い、重任は妨げないが3期までとする

## 18. その他

事務局より提案された選挙のオンライン化と会員マイページの廃止については、今後詳細資料をもとに費用を考慮して検討することとした。

## 19. 報告事項での審議事項

### 1) 支部会・関連学会委員会（泉川理事）

現在学会ホームページに各支部会の開催記録、開催予定を掲載しているが、各支部会で尽力されている先生の名前を掲げる目的で、各支部会の責任者名を追加掲載することが提案された。また、榎村理事より各支部会に入会を希望する場合に問合せ先がないと不便であると意見があり、連絡先を明記することが提案された。審議の結果、各支部会の責任者名をホームページに掲載することについて承認された。各支部会への問合せ先については医真菌学会事務局の連絡先を記載し、各支部会の担当者に転送することとなった。

以上

2022年9月30日

議事録作成人 澁谷和俊  
 議事録署名人 小川祐美  
 議事録署名人 村山琮明